平成29年3月17日 第3回高齢運転者交通事故防止対策に 関する有識者会議資料

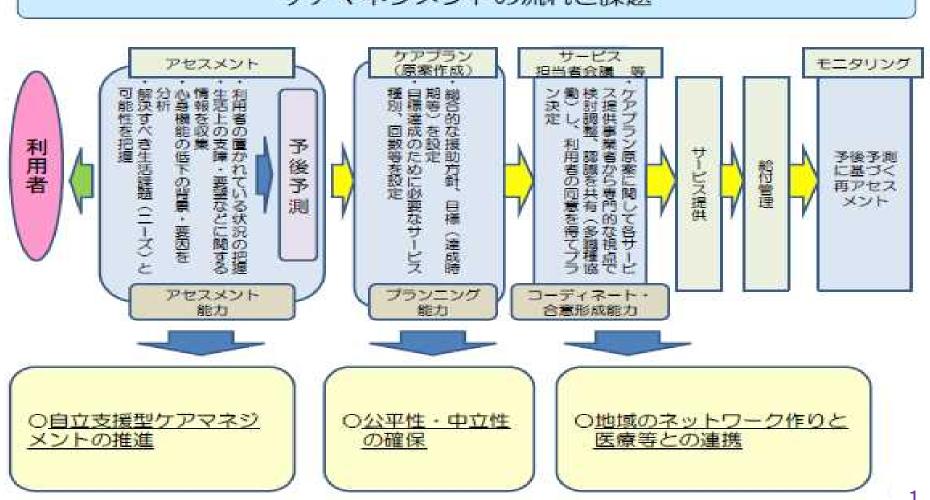
高齢運転者への生活支援~ケアマネジャーの立場から~



一般社団法人日本介護支援専門員協会常任理事 助川未枝保

介護支援専門員の役割

ケアマネジメントの流れと課題

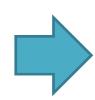


免許返納や運転を止めた成功例

事例1

要支援1、70歳代、男性

認知症無。一過性の意識障害があり、主治医より 運転を禁止され、本人にも自覚があり、説明を主治 医が行った結果、本人は受け入れ、すぐに返納し た。本人に自覚があった。



【代替手段】 自転車

事例2

要介護1、70歳代、男性

前頭側頭型認知症、妻が横に乗って道案内していた。車検を通さず、廃車にすることで運転を止めた。



【代替手段】 自転車

事例3

要支援2、70歳代、女性 認知症無、自分から返納。



【代替手段】 タクシー 有償ボランティア

免許返納や運転を止めた成功例

事例4

要支援2、80歳代 女性 認知症無、自主返納、買物が中心。



【代替手段】 店舗が併設 されている デイサービ スを利用

免許返納や運転を止めた、現在検討中

要支援2→要介護2

通院にて血液透析を行っている。

「車が傷だらけ」と、近所の人から民生委員に情報提供があった。

通院では、病院の送迎サービスを利用できるとのことにて、現在、ケアマネジャーが調整し、民生委員を交えて話し合い中。

免許返納が困難な場合や運転を止められない例

免許証が、本人証明ができずに返納できなかった。 マイナンバーの認識不可

事故の積み重ねで、ディーラーから車を処分するように言われ、新たな車を売ってくれなかった。

本人が運転を止めないので、家族からの依頼でディー ラーがエンジンを取り外した。

本人が運転を止めないので、警察署や運転免許センターへ相談したが何もしてくれなかった。

医師から宣告するが、本人は全く受け入れず、キーを家族が預かったり、止む無くケアマネジャーが預かる。

ケアマネジャーが抱える問題

・適切な代替案がない。

【ケアマネジャーの提案に対する反応】

提案1. 近所の方との乗り合いで・・・。

⇒ 他人と一緒に行きたくない。

提案2. ボランティアの運転手で・・・。

⇒ 束縛されることなく自由に自分の行きたいところ へ出かけたい。

提案3. 公共交通機関の利用で・・・。

- ⇒ バスの停留所までが遠い。
- ⇒ 階段の昇り降りができない。
- ⇒ 駅にエレベーターがない。

提案4. 移動販売での買い物を・・・。

⇒ これまで行っていたスーパーで品物を見て自分 の目で選びたい。

提案5. インターネットでの通販で・・・。

⇒ あんなものは信用できない。

高齢者が運転する際にケアマネジャーへ 求められるアセスメント内容

- 〇運転動作に関する身体能力
 - 関節可動域(頸部-腰部-上下肢等)
 - •感覚器(視力•聴力等)
 - ・連動動作(手・足の連動など)
 - -脚力-握力等
- 〇理解力・判断力
- 〇心理的要因(自分の能力低下を認めるかなど)
- 〇家族関係の要因(通院、買物のためなど)

高齢者が運転する際にケアマネジャーへ 求められるコーディネート内容

- 〇介護保険外サービスの利用
 - ・地域の助け合い
 - ボランティアの活用
- 〇地域支援事業の利用
 - ・生活支援サービスの活用
- 〇民間事業の利用
 - ・宅配など
- 〇かかりつけ医との連携
 - •主治医の理解

多様な主体による生活支援サービスの重層的な提供

○高齢者の在宅生活を支えるため、ボランティア、NPO、民間企業、社会福祉法人、協同組合等の多様な 事業主体による重層的な生活支援サービスの提供体制の構築を支援



- ・介護支援ボランティアポイント等を組み込んだ地域の自助・互助の好取組を全国展開
- ・「生涯現役コーディネーター(仮称)」の配置や協議体の設置などに対する支援



バックアップ

市町村を核とした支援体制の充実・強化(コーディネーターの配置、協議体の設置等を通じた住民ニーズとサービス資源のマッチング、情報集約等)

➡ 民間とも協働して支援体制を構築

返納を支援している事例

- Aさん、82歳、女性、要支援2(J2,自立)
 頸椎症、両側変形性膝関節症
- ・ 歩行が2本杖で歩く以外は、ADLすべて自立。
- 夫と二人暮らし、子どもはいない。
- 夫90歳、要介護4、糖尿病、脳梗塞後遺症
- Aさんは膝に痛みがあり通院治療しているが、 まだ車を運転している。
- 本人は返納を考えているが、夫は何もできなくなるので、「更新するように」と言っている。

- 買物:近くのスーパーまで、車で行き、障害者 区画に駐車して、買い物カートを杖代わりに する。週2~3回程度。
- 通院:本人の体調がいい時は車で行く。体調が悪い時はタクシー利用。
- 銀行:銀行の駐車場から歩けない為、タクシーで出入り口に着ける。帰りに出入り口で タクシーを拾うことが難しい時がある。

本人は運転を止めたくないとは思っていない。 しかし、通院や買物に行けないと生活上困る。 どこで判断するか悩んでいる。

ケアマネジャーのジレンマ

ケアマネジャーの行動	ケアマネジャーの思考
返納を勧めることに躊躇する。	ケアマネジャーの業務範囲を逸 脱していないか。
買い物は宅配を勧める。	宅配を利用することで、外出の機会が減ってしまうのではないか。
通院等をタクシーの利用とする。	経済的負担が増すのではないか。
車の鍵を取り上げる。	利用者による決定権を奪うのではないか。
本人の「運転には自信がある」を否定する。	利用者自身の否定につながるのではないか。

まとめ

ケアマネジャーが行うべきこと

- 〇利用者の意向を尊重する。
- 〇利用者が不利益を被らないようにする。
- 〇利用者の生活を守る。
- 〇利用者が加害者とならないようにする。
- 〇利用者の家族の意向も尊重する。
- 〇利用者の持つ能力をアセスメントする。
- 〇利用者が置かれた環境にあるフォーマルサービス・インフォーマルサポートの社会資源すべてを活用できるようにする。

